

## ジイジ ー 孫といた夏 (2005年NHKソフトウェア)

### 第1回「お世話になります」

片岡英吉（西田敏行）は、ある日突然、絶縁したままの息子の家へ現われる。息子の妻・夏子（古手川祐子）は「泊まってください」というが、三人の子どもは猛反対。実は、英吉は胃がんだと思い込んで、自分が死ぬまでの時間を息子の家族と一緒に暮らしたかったのだ。英吉は末っ子の翔（かける）（小杉彩人）がいじめられていたと知り、いじめっこに思い切りぶつかっていけと励ます。・・・・・・・・

翔（かける）（7歳）「ほんとはいじめられていたんだ。じゃんけんに負けて。わざと負けさせられて。僕はグー、皆はパー、いつも僕はグー、皆はパー、本当はいじめられていたんだ」・・・・・・・・

翔（かける）「お父さん、子どもの頃、けんか強かった？」

ジイジ（片岡英吉）（西田敏行）「お父さん？弱かった。毎日毎日、ボコボコにされて帰ってきた。」

翔（かける）「痛かった？」

ジイジ「そりゃあ、痛かったと思うよ。毎日毎日、ボコボコにされるんだもの。毎日同じ相手にぶつかっていった。それでも気が付くとそのけんかの相手といつのまにか仲良くなって、走り回っていたな。でもな、公平が大人になってからのあんたのお父さんのことはなにも知らないんだ。人間って、どうしようもないな。あのときこうすればよかったといつも思うのに、

同じことを繰り返すんだ」

翔(かける)「ぼくも知らないよ、お父さんのこと、あんまり覚えていないよ。

同じだよ」

## 第2回「ひとりぼっちはヤダ！」

長男の昴(すばる)(落合扶樹)が同級生の女の子・夕貴(横山香夢)を部屋にかくまった。英吉だけが気づくのだが、家族には内緒にしていた。翌日、長女のあたる(柴倉奈々)が夕貴を見つけてしまう。さらに、あたるの携帯が水浸しで壊れているのが発見された。夕貴の仕業だと責めるあたるに対して、かばいきれない昴。しかし、携帯をぬらしたのが夕貴でないとわかり、昴は夕貴に謝りにゆく。・・・・・・・・

ジイジ「大人になるとね、夕貴ちゃん。自分が子どもの頃どんな事で悩んでいたかなという事を忘れちゃうんだよ。毎日毎日の生活におわれちゃって。ましてや自分の子どもの事になるともうどんな事で悩んでいるかって、まあ、分かろうと努力はするんだけど、言ってくれなきゃ、分からねえんだよ、やっぱり。」・・・・・・・・

ジイジ「ああいいな。夕貴ちゃん。その顔、その顔で見つめられると、もうイチコロだな、俺なんか。」・・・・・・・・

ジイジ「昴、あれほど自分じゃないって、夕貴ちゃん、一生懸命言っているのに、なんで、信じてやんねえんだ。言うにことかいて、微妙はないだろ。いったん、しょいこんだら、最後まで、向き合えよ、それが責任というも

んだぞ。」・・・・・・・・

### 第3回「居場所をください」

携帯電話が欲しいあたるは友達に誘われて、時給3千円の怪しいバイトにでかける。英吉は売春のうわさのある、そのバイト先にのりこみ、あたるを助け出す。しかし、あたるは家に帰ると、部屋にこもってしまう。そんなあたるに英吉は、ドアごしに切々と自分にとってあたるがどんなに大事な存在かを訴える。あたるは英吉の優しい気持ちが心にしみ、英吉への心のわだかまりが少しずつ解けていく。

ジイジ「あたる。あんたははずれじゃないからな。あんた大当たりだからな。

めっちゃめっちゃ大当たりだからな。ジイジ、白状するけどな。あんたが生まれたと聞いたとき、いてもたってもいられなくて、福島から東京の病院にあんたに会いに来たんだ。あんた今ではスクスク育ってこんなにめんこい子になったけど、あんた、生まれた時ちっちゃくてな、さわったら壊れちゃいそうなくらいちっちゃくて、俺があんたのほっぺたをチョンチョンとつつくと、あんたのちっちゃい手がジイジの指ぎゅつとにぎってくれての、俺嬉しくて、もう嬉しくて、嬉しくてヘラヘラだ。でもそのときのジイジの指、タバコくさかったんだよ。それからもう、きっぱりタバコをやめたんだ。

### 最終回「みんなといたい」

英吉と夏子がそれぞれの思いを抱えて、家出してしまう。残された子ども

たちは、仮病を使って2人を呼び戻し、仲直りバーベキューパーティーを計画。そのおかげで、心のわだかまりがほぐれる2人。夏子は死んだ夫・公平が、いかに英吉のことを考えていたかを話す。

